

2005年公民科倫理1学期中間考查(3年1,2,3,4,5組+理系) 正解と解説

大問	問題番号	正解	正答率	配点	大問	問題番号	正解	正答率	配点
1 74.9%	1	1	76	2	3 61.3%	26	1	58	2
	2	3	70	2		27	2	73	2
	3	3	95	2		28	4	77	2
	4	4	88	2		29	3	47	2
	5	2	88	2		30	4	88	2
	6	1	70	2		31	1	84	2
	7	2	52	2		32	4	87	2
	8	3	75	2		33	2	16	2
	9	1	53	2		34	4	63	2
	10	2	87	2		35	3	71	2
	11	2	88	2		36	4	39	2
	12	3	69	2		37	3	44	2
	13	4	53	2		38	4	53	2
	14	1	84	2		39	1	53	2
2 61.2%	15	3	80	2	4 56.7%	40	1	56	2
	16	3	37	2		41	3	40	2
	17	2	16	2		42	2	67	2
	18	2	55	2		43	4	54	2
	19	1	94	2		44	2	84	2
	20	1	37	2		45	1	32	2
	21	4	46	2		46	3	71	2
	22	4	83	2		47	2	24	2
	23	1	70	2		48	1	55	2
	24	2	94	2		49	1	75	2
3	25	3	22	2	5 55.3%	50	3	75	2

平均
63.9 点

最高点
94 点

標準偏差
13.8

点数	頻度	累積
95~100	0	0
90~94	5	5
85~89	6	11
80~84	15	26
75~79	12	38
70~74	35	73
65~69	30	103
60~64	26	129
55~59	17	146
50~54	26	172
45~49	7	179
40~44	8	187
35~39	5	192
30~34	3	195
0~29	2	197

得点	校内偏差値
100	76
95	73
90	69
85	65
80	62
75	58
70	54
65	51
60	47
55	44
50	40
45	36
40	33
35	29
30	26

解 説

考查全般について

さて、初めての倫理の定期考查はいかがだったでしょうか。問題を見てもらってわかるとおり、表紙から何からすべてセンター試験を意識したものになっています。過去問もたくさん出題していますし、単純な知識を問う問題はほとんどありません。定期考查もセンター対策になるような作りになっています。考查の過去問をチェックした人は感じているのではないかと思います。じつは、昨年よりも多少難しい問題にしてみました。見込みとしては、60 点を切るかとも思ったのですが、平均が 63.9 点とは立派なものです。さすが東高生です。度数分布を見てもらってわかるとおり、80 点以上の生徒が 26 人もいましたが、これもこの問題にしてはたいしたもの。今後も倫理の定期考查はセンター試験よりもやや難しい位のレベルで作成しますので、この調子でしっかり頑張ってください。

それから、センター試験倫理受験者のための補習を 23 日（木）朝 7 時 20 分スタートする予定です。1 月のセンター直前まで学校のある日の毎週木曜日の朝は「倫理でおはよう！」といきましょう。多くの参加をお待ちしております！

また、今回の考查のリード文はすべて、小学館の『日本大百科全書』のギリシア哲学から引用して作成しています。高校教科書レベルよりも深かったり、多少異なっている部分もあると思いますが、きちんとした権威ある文章ですので、リード文から学べるところも多いと思います。もう一度じっくりと読んでみましょう。

第 1 問

問 1 [1] 正解 1 76%

通常の問題だったら、「ヘロドトスの著作は？」という質問に対して、『労働（仕事）と日々』、『オデュッセイア』、『イリアス』、『オイディプス王』となるんではしょうが、ここでは作品の内容のキーワードから正解を選んでもらいました。ヘロドトスヘロドトスの著作の知識として『労働（仕事）と日々』と『神統記』を知っていて、さらに選択肢の中のキーワード「労働」「神に愛される」、「トロイア」「流浪の旅に明け暮れた」、「アキレウス」、「オイディプス」から著作を推理する問題です。センター試験ではストレートに用語が選択肢となる問題は 20 点未満ですね。選択肢の中に隠れているキーワードから正解を探る問題が多いですよ。

問 2 [2] 正解 3 70%

これは、用語に関する正確な知識に加えて、多少の読解

力が必要ですね。【用語説明】から抽出すべき概念は「形を有しない無秩序な状態」でしょうね。これをあらわすギリシア語は「カオス」です。「混沌」と訳されますね。数学にカオス理論というものもあるようです。間違えた人は覚えておきましょうね。ハズレ選択肢の用語もしっかり確認しておきましょう！ スコレーとはスコラ スクールの語源となった「暇」。カロカガティアとはギリシア的価値としての「善美」。コスモスはカオスとセットで覚えておくべきです。「秩序ある宇宙・世界」という意味です。

問 3 [3] 正解 3 95%

「万物の根源」= アルケーと「徳・卓越性」= アレテーは知らないで困る、最重要用語です。プシュケー=魂が psychology（心理学）の語源である話は授業の中でしましたね。ハルモニアとは「調和」 harmony。ちなみに 95% は今回の考查の最高正答率問題です。逆に言うと、この問題が不正解だった人はテスト前の学習が不足していることとなります。次回はしっかり頑張りましょう。

問 4 [4] 正解 4 88%

タレスが「万物の根源は水である」といったことは正答率 100% レベルですから、事実上の 2 択ですね。いずれもミレトス派の自然哲学者などですが、アルケーをそれぞれアナクシマンドロスは「無限なもの」、アナクシメネスは「空気」としてとらえていました。88% とはよくできていたと思います。

問 5 [5] 正解 2 88%

このような応用問題もセンター試験ではよく出題されます。授業でも詳しく説明しましたが、ピュタゴラス派は数学者グループではなく宗教的意味合いの強いグループでした。彼らは天文学や音楽のなど宇宙の中に数の調和を見出して瞑想し、真なる知恵を得ることによって魂を浄化（カタルシス）しようとしています。そこから、と のどちらかということになりますが、の美がカタルシスをもたらすという発想は、「悲劇の機能は観客に憐憫（れんびん）と恐怖とを引き起こして、この種の感情のカタルシスを達成することにある」とする、アリストテレスの『詩学』の観点に近いですね。の数的秩序が調和（ハルモニア）をもたらすという説明の方がピュタゴラス派の思想として適当であるということになります。資料集 p.33 解説ピュタゴラス参照のこと。

問 6 [6] 正解 1 70%

の「肉体は靈魂の墓場（牢獄）である」は資料集 p.33 にある通り、ピュタゴラスの言葉です。ヘラクレイトスについても、「万物の根源は火」と「万物は流転する」のキーワードを覚えておくだけでなく、自然哲学の流れの中でどのような位置付けになるかを押さえておきたいところです。是非試験のリード文を読み込んでおいて下さい。

問 7 [7] 正解 2 52%

「有るものは有り、有らぬものは有らぬ」というパルメニデスの言葉は「有らぬもの」の存在を認めないという意

味になります。またリード文にもあるように、「感覚に現象する生成・消滅する事物」は「虚像にすぎない」ので生成消滅や空虚、運動を否定したということになります。

問 8 [8] 正解 3 75%

センターの過去問ですが、デモクリトスの原子論をケノン(空虚な空間)という用語とアトム(原子)の不可分な性質も含めて理解している必要があります。単純なデモクリトス=原子論という図式だけではセンター試験に対応できないことが分かりますね。

問 9 [9] 正解 1 53%

前の問題に倣って、エンペドクレスの問題を作ってみました。地(土)・水・火・風(空気)がエンペドクレスの四元素であるということは84%の生徒が分かっていたが、「無からの生成と無への消滅」を認めていたかどうかで解答が割れてしまいました。これについては、じつはリード文をしっかり読めばどちらかが分かるようになっています。リード文中では、エンペドクレスがパルメニデスにしたがった哲学者の一人としてはっきり描かれていますので、彼が「無からの生成と無への消滅」を否定していたことが分かります(授業プリントにも載せておいてはありますが...)。センター試験の問題の中にもリード文の中に正解のヒントが含まれていることはよくあります。選択に迷ったらリード文に戻ることが大切です!

問 1 0 [10] 正解 2 87%

これはセンター試験の簡単な問題です。間違えてはいけません。プロタゴラスの「万物の尺度は人間である」もそのまま選択肢になるのではなく、「人間こそが真理の基準である」という解釈で選択肢になっていますね。はソクラテス、はヘラクレイトス、はエピクロスの思想です。当然みんな分かりましたね。

問 1 1 [11] 正解 2 88%

2004年のセンター試験では基本的な用語や人名を問う問題が17点分、基本的な概念などの内容を問う問題が61点分、そして総合的な思考力・判断力・応用力を問う問題が22点分という出題内訳でした。例年このくらいの内容比率です。この問題は典型的な思考力・判断力・応用力を問う問題です。資料を読んでその内容に合致する記述を選ぶスタイルの問題では、現代文的な読解力にも関わります。この手の問題は誤読しないように十分注意してください。カリクレスの主張は「弱肉強食が自然だ」ということです。競争原理を唯一肯定している が正解となります。

問 1 2 [12] 正解 3 69%

問題文中の「ゴルギアス」に注目です。弁論術の大成者ゴルギアスを代表とするソフィストが報酬をもらって、何を教えていたのかということと考えれば「弁論術」が導かれるでしょう。25%の生徒が「知恵」を選びましたが、これはソクラテスのいうところの徳です。間違えないようにしましょう。

問 1 3 [13] 正解 4 53%

この手の概念の内容を問う問題は選択肢だけしか見て

いないと答えが見えてきません。問題文中のプラトンが批判したということがヒントになっています。選択肢中に出てくる「寒さ」自体や「暑さ」自体とは寒さと暑さのアイデアをあらわしているということが分かり、暑さ寒さの基準が人間によって違っているというプロタゴラス的判断が相対主義的であることが把握できれば正解を導くことができます。を選んだ24%のみなさんは、プラトンが批判したという点が見えなかったということになります。

問 1 4 [14] 正解 1 84%

ちょっと強引な問題でしたが、センター試験過去問には「パラダイム」という用語の使い方の正しいものを選ぶものもありました。ノモス=法・慣習、ピュシス(フュシス)=自然、をあてはめて意味が通れば正しいということです。ギリシャ語系のジャーゴン(専門用語・隠語)は学術用語としてよく使われます。文系理系を問わず知ってて損はないですよ!

第2問

問 1 [15] 正解 3 80%

リード文では、ソクラテスのキーワード「魂の世話(配慮)」を、少しかえて表現してありますね。ここでを選んだ11%の皆さんは、「自分自身の真理」という表現がプロタゴラス的(人間尺度的)であるということに気付けばこれを選ばなかったはずですよ。

問 2 [16] 正解 3 37%

これは前回のセンター試験の問題です。皆さんの先輩、東高受験者の正答率も50%に留まってしまったものです。この問題でポイントとなるのが、産婆術とは、ソクラテスが対話相手に真理を教えるのではなく、対話相手を無知の知に導くのだという点です。もう一つのポイントが、ソクラテスが真理をどうとらえていたかということです。資料集p.39の「問答法」の解説にある通り、真理としての知識を獲得することができるのは神だけであるという観点がソクラテスにはあります。そこから、ソクラテスも対話相手も真理に到達することはできず、ドクサ(思い込み)から抜け出し、自分が無知であることを自覚しつつ、到達することのできない真理を探究し続けることが魂の世話あるいは浄化(カタルシス)だということになります。を選んだ人が42%いましたが、共同で探究するのではなくあくまでも主役は対話相手ですし、真理を生むのではなく無知の自覚を生むのです。はソクラテスが無知から解放されますが、対話相手が無知を自覚するのです。ということで、が二つのポイントを満たして正解となります。

問 3 [17] 正解 2 16%

この問題は問題番号[33]と並んで最低の正答率でした(T_T)。8割以上の人が「理論」か「論理」を選んでいましたが、いずれも違います。正解を導くために、リード文をどのように読むべきかについてみていきましょう。リ

ード文では「これらの問答の主題は...[B]に関するもの」とありますが、「これらの問答の主題」とはどれをさしているのでしょうか？ そうです。「人を幸福にするものは何か、善いものは何か、勇気とは何か」というテーマですよ。ところでこのテーマは「制作」的ですか？ それとも「実践」的？ 「理論」的？ 「論理」的？ アリストテレスの学問の分類でも学んだとおり、これらのテーマは倫理的であり、すなわちいかに生きるかという「実践」的な主題ですよ。問答自体は論理(ロゴス)的でしょうが、テーマはあくまでも実践的ですからね。みなさんはどこでつまりましたか？

問4 [18] 正解 2 55%

ソクラテスの問答法は、産婆術とも皮肉法ともいわれました。皮肉法(エイロネイア=アイロニー=よそわれた無知)は後に、相手をおとしめて自己の優越性を証明する修辭的手段とされるようになります。ちなみに修辭(しゅうじ)とは、「巧みな言いまわしを用いたり修飾を加えたりして美しく効果的に表現すること。また、その技術。レトリック。」(国語大辞典、小学館)のことです。たとえば、「アロエロアロエロアロエロア」というと「アロエ」がエロっぽく聞こえるのも一種の広告的レトリックです。覚えておきましょう。ユーモアは人を傷つけない上品な笑い。

ウィットはその場にに応じて気の利いたことをいう機知。

ダイアログは対話や問答さらに「対話篇」という意味がありますが、リード文の文脈からはアイロニーの方がより適切といえるでしょう。

問5 [19] 正解 1 94%

「汝自身を知れ(グノーティ・サウトン)」という当時の箴言(しんげん: 格言、いましめとなる言葉)のソクラテス的解釈ですが、よくできていました。後の時代には、「メメント・モリ(死を想え)」という、自分が死すべき存在であることを忘れるなという意味に取られるようになりましたが、ソクラテスは「無知なる自己を自覚せよ」という意味で自らの標語としました。

問6 [20] 正解 1 37%

この問題はセンター試験では、正しいものを一つ選べという形で出題されました。正解は前の問題と共通しますが、ウになります。アは、ソクラテスが神託を誇りにしたわけではなく、真理そのものを説いたわけでもないで×。イは知者と公言していない点と、学校を作っていないという点から×。エはソクラテスがアテネを追放されたわけではなく、死刑となったという点で×です。

問7 [21] 正解 4 46%

これは結構難問だと思ったのですが、半分弱の人ができていたのには感心しました。これらの選択肢ではすべて違った意味で「ロゴス」という言葉が使われています。の「初めにロゴスがあった」は、新約聖書「ヨハネによる福音」の冒頭部分で「初めに言葉があった」と訳されていますが、ここでいうロゴスとはイエス・キリストのことを指します。の「万物はロゴスに従って生じている」とは「理

法」としてのストア派的なロゴスですね。「人間だけがロゴスを持つ」とは「理性」という意味で使っています。正解の「最善と思われるロゴス」という表現で「言論としての言葉」をロゴスと表現していますね。これが、問答法におけるロゴスです。

問8 [22] 正解 4 83%

これも予想以上の正答率です。もともとすべての意味においてドクサ=思い込み、というわけではなく、資料集 p.48にあるとおり、ソフィストはドクサを「健全な判断」という意味で使っていました。しかし、いずれにしても、ドクサが主観的知識であるという点では変わりません。

問9 [23] 正解 1 70%

まだキリスト教思想には触れていませんが、「あなたの隣人を愛しなさい」という言葉が聖書の言葉だということは知りませんでしたか？ は知徳合一。はただ生きるだけでなく、善く生きること。は知行合一をあらわすソクラテスの思想です。

問10 [24] 正解 2 94%

これも94%とよくできています。「魂の世話」を重視していたソクラテスにとって、永遠なる魂がそこなわれるくらいなら、処刑を受け入れた方がましと考えたわけです。

第3問

問1 [25] 正解 3 22%

空欄の穴埋めです。たしかに文の流れからすると、「いつも生まれてくるとともに、いつも過ぎ去っていくもの、流動変化を免れない」と来ると、[川]と入れたくなくなってしまうのでしょうか。51%が を選んでしまいました。たしかに、ヘラクレイトスは「同じ川に二度は入れない」といっています。しかし、プラトンは『国家』の「洞窟の比喩」の中で、善のアイデアを太陽にたとえたとともに、移りゆく現象の世界を洞窟の壁に映る「影」としてたとえていましたね。単純な文章の流れではなく、きちんとした根拠を持って選択しましょう。

問2 [26] 正解 1 58%

アテネに学校を開いた哲学者には、プラトンとアリストテレスとキプロスのゼノンがいましたが、それぞれ区別できているかがポイントです。資料集 p.40 のプラトンの生涯のところには、学園アカデメイアにはエロスの像と「幾何学を知らざるものこの門より入るべからず」という標語があったと書かれていますので、正解は 。ペリパトス学派と呼ばれたのはリュケイオンのアリストテレス派です。アカデメイアが閉鎖されたのは開校から約 900 年後でした。彩色柱廊(ストア・ポイキレ)に学校を作ったのはキプロスのゼノンです。

問3 [27] 正解 2 73%

前の [16] で解説したとおり、ソクラテスは真理を得ることができないと考えたのですが、プラトンは真理としてのアイデアを理性によって認識することが可能であると

考えました。その根拠が、かつて人間の魂はアイデアの世界の住人であったからということです。だから人間の魂はアイデアの世界を想起(アナムネーシス)することによって、アイデアを認識できるとしたわけです。ハズレ選択肢ですが、アレティアは「真理」(資料集 p.32 要点)、ヒック・ロードスは「ここがロードスだ」(資料集 p.41 コラム)、スコレーは「暇」という意味です。確認しておきましょう。

問4 [28] 正解 4 77%

センター過去問です。アイデアとはどのようなものかという問題ですが、リード文がアイデアのことを説明しているので、じつは知識がなくても読解力でも解くことができます。

とはまだ学習していませんが、それぞれキーワードを含んでいます。が「自由」「絶対精神」というキーワードからヘーゲルの概念を、が「構造」というキーワードからレヴィ＝ストロースなどの構造主義の概念をあらわします。の鍵となる言葉は「個物」と「素材」ですがこれは誰の思想かというところ、アリストテレスですね。ということで「感覚的世界を超えた永遠の存在」がアイデアの説明として適当です。

問5 [29] 正解 3 47%

「最高善は幸福(エウダイモニア)である」と考えたのはアリストテレスでした。間違えた人は資料集 p.41 の善のアイデアの項目をもう一度確認しましょう。

問6 [30] 正解 4 88%

授業の中ではエロースを「価値あるもの(アイデア)を求める愛」と定義しました。選択肢の中で一番近いのは「善美なものへの憧れ」ですね。9割近い正答率でした。

問7 [31] 正解 1 84%

プラトンの著作の代表的なものを覚えていれば、クセノフォンの『ソクラテスの思い出』という著作(資料集 p.36 生涯)を知らなくても消去法で解くことができます。

問8 [32] 正解 4 87%

そのなかでも、『ソクラテスの弁明』では法廷弁論を通してソクラテスの思想が語られ、『国家』では魂と国家の三部分説、哲人政治、洞窟の比喻などが語られ、『饗宴』では、エロースとしての愛・恋について語られています。

問9 [33] 正解 2 16%

これも前回のセンター試験の難問です。[17]とならぶ最低の正答率でした(T_T)。ちなみに東高の先輩たち(05年倫理受験者)の正答率は39.1%でした。この問題の難しいところは、魂の正義をもたらす状態が、理性(御者)が気概と欲望(2頭の馬)をコントロールしている状態なのですが、それをあらわすの前によけいな言葉がついているところなのです。「知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい」という言葉は理想国家としての哲人政治の実現を否定しているように聞こえますので、これを正解として選ぶには抵抗が生じてしまうのです。しかし、プラトンの『国家』を読んでみると、9巻の最後に、理想国家は「理想的

な範型(パラディグマ)として天上に存在すると示されていて、現実的には存在していないことも示されています。したがって、も哲人政治を否定しているのではなく、現実の政治を行うものの理想として存在するのだということです。資料集では p.42 の解説「プラトンの理想国家」を参照してみてください。

第4問

問1 [34] 正解 4 63%

アリストテレスによるプラトンのアイデア批判をきちんと理解しているかが問われる問題です。事実上、現実主義の二つから選ぶ二択のような問題ですが、そのうちを選んだ人が22%いました。アリストテレスは本質的・真実在(アイデア)を存在しないと考えたのではなく、アイデア界の存在を否定して、現実の世界の中に本質を見出そうとします。それが個物の中に存在するエイドス(形相)です。したがって、「実体を現実の世界の個物だけに求めた」が正解になります。

問2 [35] 正解 3 71%

三段論法は1.大前提、2.小前提、3.結論の形式で展開される推論です。だけが二つの命題から構成されていますので、これが三段論法ではありません。この推論はG帰納法といい、近代思想の部分で登場します。ちなみに、とは似ていますが、の推論は真ですがは真とは限りません。なぜだかわかるかな? 数学の必要条件と十分条件を思い出しましょう。

問3 [36] 正解 4 39%

論理学は「いかに行くか」という実践に関わる学問で厳密性に欠けるとアリストテレスはいいます。論理学と理論学を選んだ人がそれぞれ4分の1以上いました。プリントを確認しておきましょう。

[37] 正解 3 44%

数学は悩むところかも知れませんが、自然科学や形而上学とともにテオリアに関する学問として理論学に分類されていましたね。ところで後世の人が『オルガノン』と呼んだのは～のうちどれですか? はい、理論学を学ぶ前の道具(オルガノン)はの論理学でしたね。

問4 [38] 正解 4 53%、[39] 正解 1 53%

これは、エイドス(形相)、ヒュレー(質料)と日本語訳をつけた方が正答率がよくなったかな? エイドスとヒュレーを逆に答えた人が30%程いました。アイデア・エイドス・無形・ヒュレーがリード文中から読み取ることのできるヒントです。

問5 [40] 正解 1 56%

これも2004年当時(2回前のセンターの時)は難問とされた問題ですね。当時の東高生の正答率は28%でしたから、皆さんはよくできています。テオリアという概念を「観想」や「理論」としてだけではなく、語源の「眺める」という点から真理を認識する働きとしてとらえていない

と「厳密な論証・推論」を選んでしまいがちな問題です。

問6 [41] 正解 3 40%

この問題もアリストテレスの倫理学についての深い理解が要求されます。最高善としての幸福をもたらすのは、倫理的徳ではなくて、観想的な生活です。26%の皆さん残念！ 倫理的徳は生まれつき備わっている徳ではなくて、経験的に獲得する徳です。これを選んだ人は4%でした。人が何が中庸かを知るは倫理的徳によってではなく、知性的徳の中の思慮(フロネーシス)によってでした。28%の皆さん残念！ ということで消去法から が正解です。

問7 [42] 正解 2 67% [43] 正解 4 54%

センター過去問が続きます。アリストテレスは倫理的徳のうちの一つ「正義」を重視するとともに細かく分析しています。全体的正義にあたるのがポリスの法を守ること。選択肢の中で がそれにあたるように見えますが、「自らの利益になることをめざして」という点でこれは正義ではありません。部分的正義のうち、配分的正義は地位や報酬の公正な配分を意味しますので が正解。調整(矯正)的の正義は利害得失が平等になるように調整することを意味しますので が正解となります。

第5問

問1 [44] 正解 2 84% , [45] 正解 1 32%

ストア派の禁欲主義は正答率8割を超え、よくできていました。エピクロス派は快楽主義として知られていますが、原子論に基づいて人間の生き方を模索していたことを忘れてはいけません。すべての存在が、魂ですら物質としてのアトマでできているとするこの考え方は唯物論といわれます(デモクリトスは唯物論の祖といわれる)。したがってこの正解は となります。

問2 [46] 正解 3 71%

ヘレニズム時代の個人主義の成立の背景です。うっかり書き忘れましたがこれも94年のセンター本試験の過去問です。世界国家(コスモポリス)の中で身の置き所となるポリス共同体を失ってしまい、個人の魂の安定を求めるようになったわけです。これも授業で説明したはずだよなぁ~。

問3 [47] 正解 2 24%

これは資料集から作った問題でしたが、ちょっと難しかったようですね。コスモポリタニズムをはっきりと著作の中で展開したのは、ローマ帝国の五賢帝の一人マルクス・アウレリウスでした。ローマ帝国の五賢帝時代というのは、皇帝は最善の人が統治者たるべきであるとするストア哲学の考えに従って後継者を選んで養子にしていたんですね。ヘレニズム時代に始まるストア派の世界市民主義は、ローマ帝国で花開いたわけです。ロゴスに基づく万人の平等の思想がこの後ローマで拡大するキリスト教の土壌に

もなりました。『自省録』という著作名も覚えておきましょう。また、ほかの選択肢のストア哲学者についてももう一度チェックしておきましょう。

問4 [48] 正解 1 55%

エピクロスの思想を概念としてしっかり理解しているかというセンターの過去問です。正答率が55%とはちょっと物足りないですね。23%と誤答のうちで最も多かったのが です。正解の とほとんど一緒ですが、「中庸」というアリストテレスの概念が入っているせいで不適当な選択肢となっています。 は同様に新プラトン主義の「神と合一」という概念が不適切ですし、 は「大自然の中の原始的生活」が「健康で質素な共同生活」なら正解でした。

問5 [49] 正解 1 75%

プリントの穴埋めそのままの単純な人名知識問題ですが、4人に1人、25%の皆さんはプリントの最後まで勉強が達しなかったようです。彼のプロフィールをもう一度掲載しておきます。「プロティノス(205頃~270):新プラトン主義を代表する哲学者。プラトンを模範として独自の哲学体系を築き、古代ギリシア哲学の末期を飾った。またその思想は、アウグスティヌスらを通じてキリスト教神学と結びつき、ヨーロッパ精神史のなかに多大の影響をのこしている。彼の主著『エンネアデス』は、死後弟子のポルフィリオスが編纂したものである。」(『世界大百科事典』平凡社より一部抜粋)

問6 [50] 正解 3 75%

この問題は一応センターの過去問なのですが、本当は自然哲学の概念を選ばせる問題で正解は でした。これを新プラトン主義の概念を問う問題に作り替えました。キーワードの「一者」と「流出」が分かれば解けた問題で、前の問題を解けた人はだいたい解けているのだと思います。いうまでもなく、 は「理(ロゴス)に従う」「情念に支配されない」の概念からストア派。 は「質料」「形相の現実化」というキーワードからアリストテレスの思想です。世界自体は永遠に存続するという点もアリストテレスの思想として注目ポイントかな？

以上!